

「ふくまちガイド」ってなに？



ふくまちガイド



ふくまちガイド(実践編)

- ▶ 横浜市では 1997 年に「横浜市福祉のまちづくり推進指針」をつくりました。これは、横浜市が「福祉のまちづくり」のために必要だと考えることを書いたものです。
- ▶ 「横浜市福祉のまちづくり推進指針」は、3～5年ごとに見直されます。2021 年のものから、「ふくまちガイド」という名前を付けました。

発行年月 令和4(2022)年3月
発行 横浜市 健康福祉局 地域福祉保健部 福祉保健課
電話 045-671-2387
FAX 045-664-3622



インクルーシブな
みんなのまちは、あなたのアクションから

横浜市福祉のまちづくり推進指針(令和3年度～7年度)

令和3(2021)年3月

ふくまちガイド
〈わかりやすい版〉

わたしたちは こんな横浜をつくりたい

横浜市は、横浜を

どんな人も生活しやすいまちに
していきたいと考えています。

そのために横浜市は、

「福祉のまちづくり」に取り組んでいます。

横浜市は「福祉のまちづくり」で

次のようなまちにしたいと考えています。

- ▶ **みんなで一緒にあって取り組むまち**
- ▶ **さまざまな人たちがお互いを大切にするまち**
- ▶ **みんなが安心して自由に生活できるまち**

みなさんにも「福祉のまちづくり」のことを
考えてほしいと思っています。



横浜市が大切にしている4つのこと

横浜市が目指す「福祉のまちづくり」。

それを進めていくために、

横浜市では4つの大切なことを決めました。

これを「ポリシー」といいます。

この4つのポリシーを、

横浜市はみなさんと一緒に

進めていきたいと考えています。

ポリシー1 みんな違ってあたりまえ

障害のある人や外国人、子ども、お年寄りなど
さまざまな人たちがお互いを大切に思うこと。

ポリシー2 一緒に活動する

さまざまな人たちが、一緒に活動しながら、
お互いのことをよく知ること。

ポリシー3 まずは やってみる

一人ひとりが自分のできることを考え、
実際にやってみること。

ポリシー4 もっと もっと バリアフリー

建物や設備のバリアフリーを進めるだけでなく、
バリアフリーに関する情報を必要な人に届けること。

みんな違ってあたりまえ



ポイント

- まわりの人が
考えていることを 知ろう

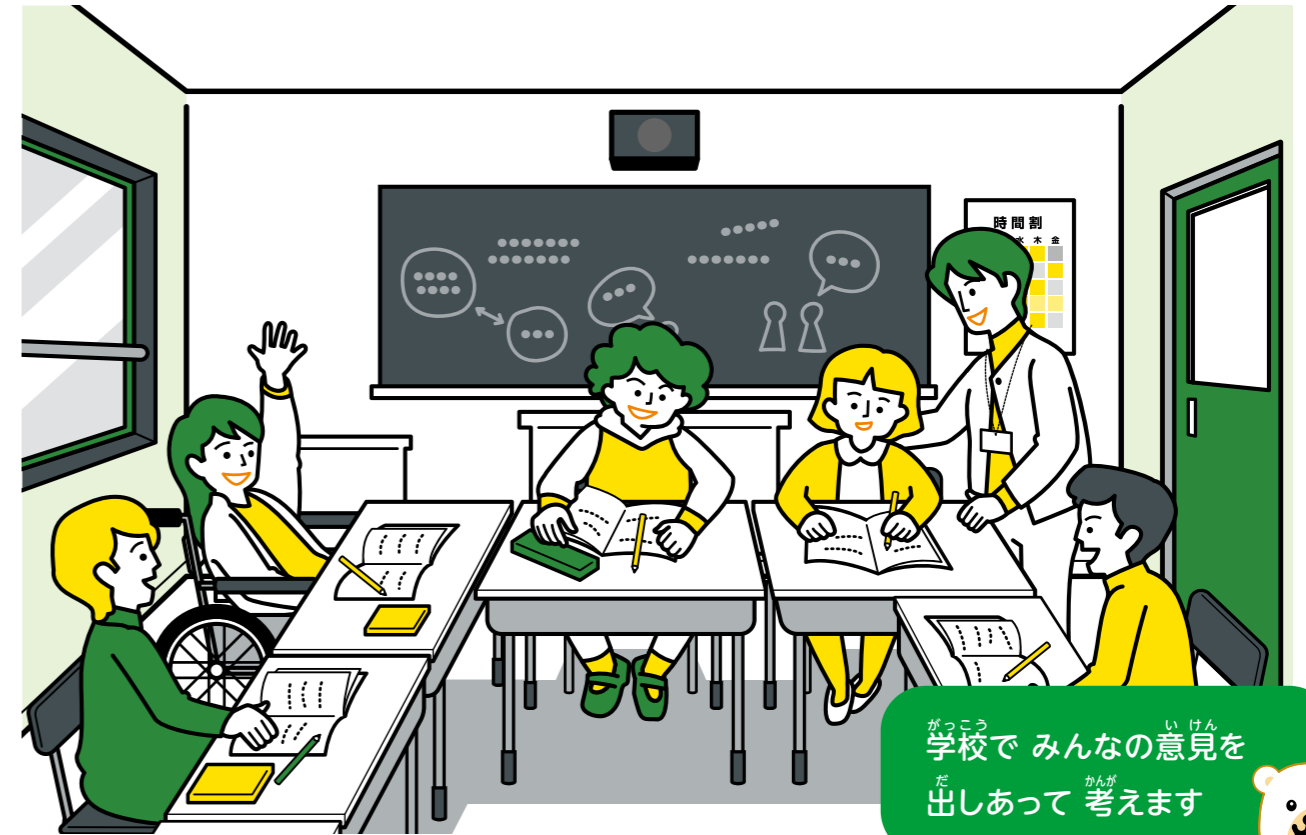
- 自分の考えを
押しつけないようにしよう

- どんな人でも参加できる
社会をつくろう

▶ 私たちは みんな
違った考え方をもっています。
みんな違うのがあたりまえです。
相手のことをよく知らないのに
「相手が間違っている」と
決めつけるのは
よくありません。

▶ 人はそれぞれ、
大切なこと、できること、
したいと思うことが
違います。
生活のしかたや 仕事、
人間関係も 違います。
どんな人でも 参加できる社会を
つくっていくことが 大切です。

たとえば…



学校で みんなの意見を
出しあって考えます



障害のある人も
はたらきやすいように
職場を変えます

一緒に活動する



- たくさんひとの人たちと知りあおう**
- 一緒に活動して
他ほかの人ひとのことをもっと知ろう**
- おたがいが大切たいせつだと思える
社会しゃかいをつくろう**

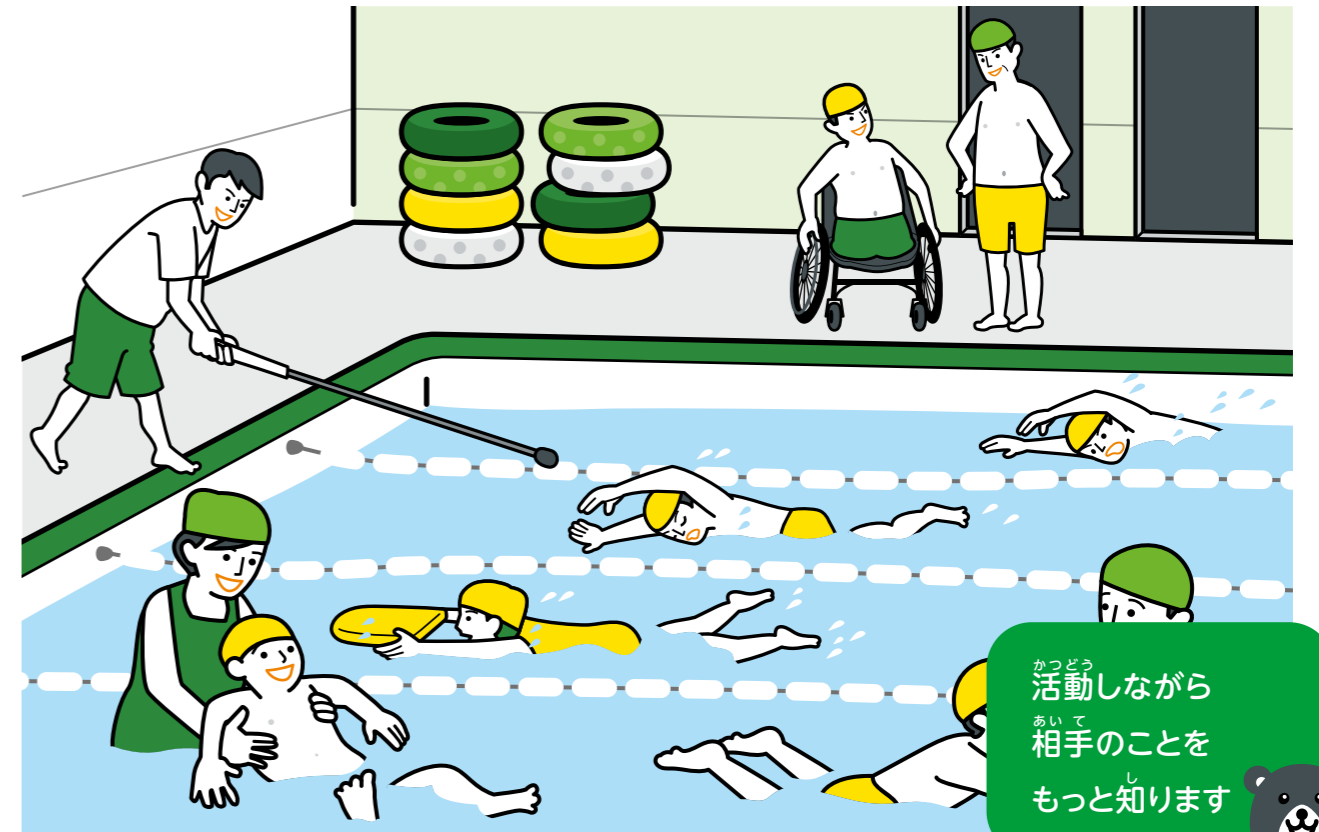
▶ 同じ趣味おな しゅみの人ひとと集あつまったり、一緒に地域いちしょ ちいきで活動かつどうしたりすると、たくさんひとの人たちと知りあいになれます。
また、子どもこのころから近所きんじよの人たちと仲なかよくしていると、大人おとなになっても仲なかよくできるはずです。

▶ どんな人ひとともおたがいのことを大切たいせつだと思えるようになるためには、たくさんひとの人たちと知りあうことが大事だいじです。
相手あいてのことをよく知り、自分じぶんのことも知ってもらい、おたがいのことを大切たいせつと思える社会しゃかいをつくっていきましょう。

たとえば…



ぼうさいくんれん
防災訓練で
たくさんひとの人たちと
知りあいます



かつどう
活動しながら
あいて
相手のことを
もっと知ります



まずは やってみる



ポイント

- ^{じぶん} **自分**が ^{かんが} **できる**ことを **考えて**みよう

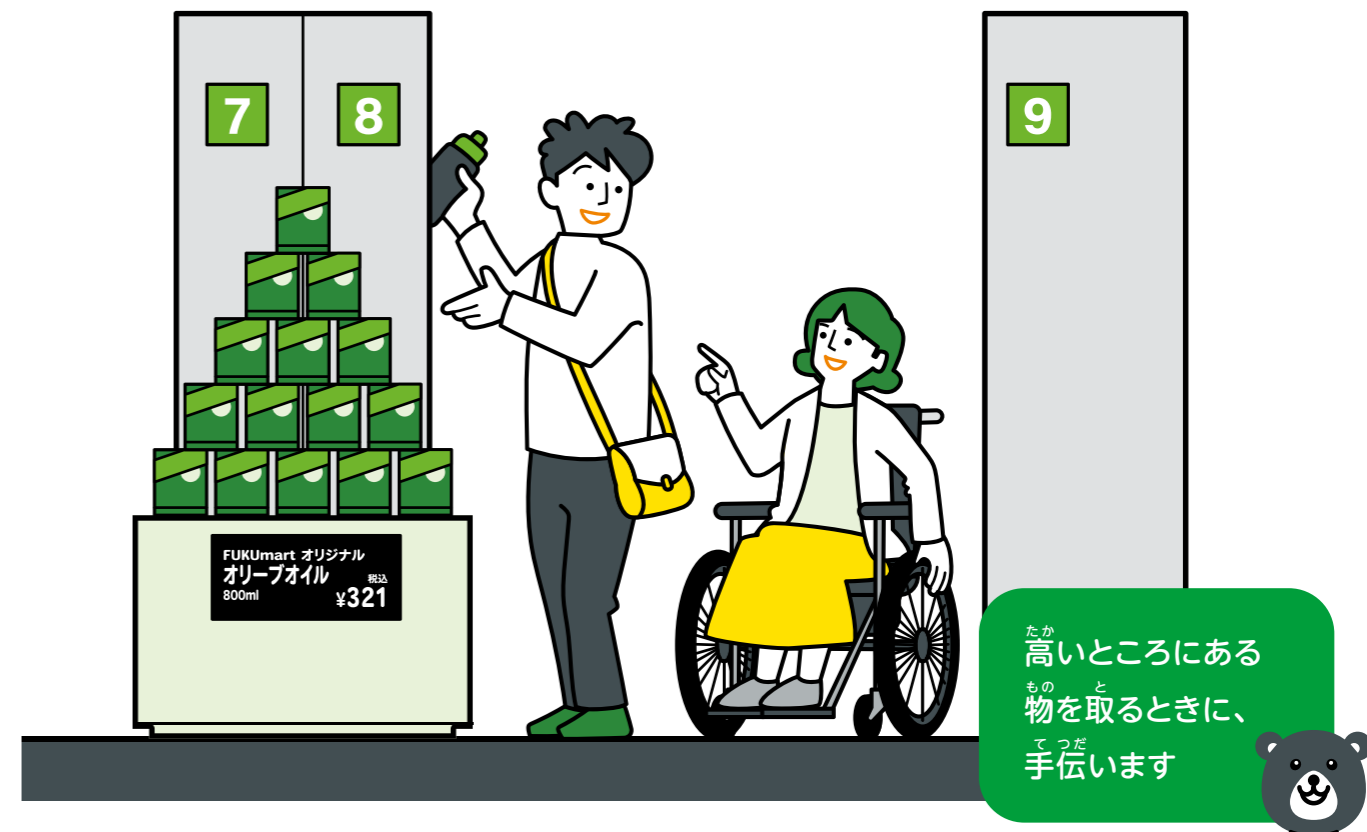
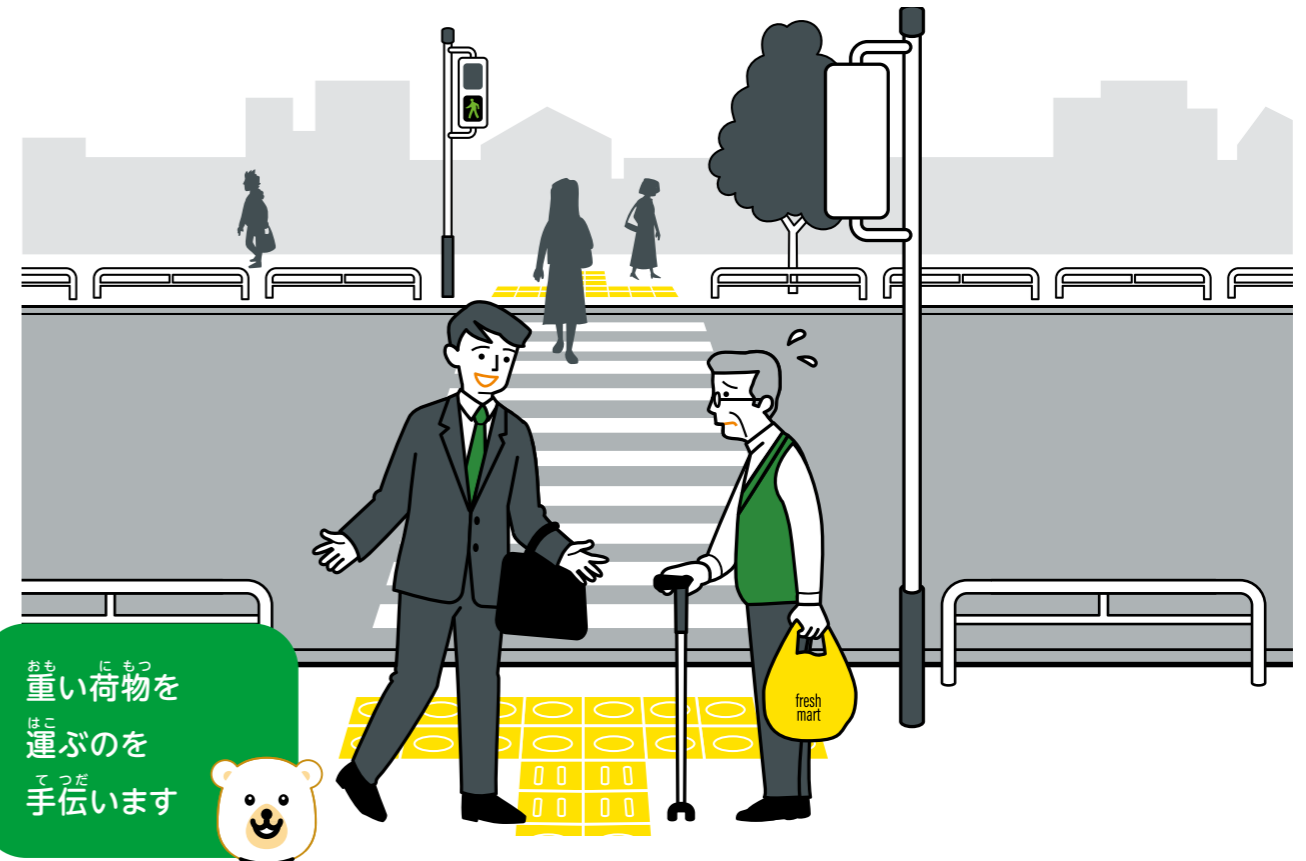
- 「^{たす} **助けて**ほしい」と ^い **言**っていい

- ^{みんな} **みんな**で ^{すこ} **少し**ずつ **できる**ことをしよう

▶ ^{あいて} **相手**のことを ^{たいせつ} **大切**にするために、
 まずは ^{じぶん} **自分**が **でき**そうなことを ^{かんが} **考**えてみましょう。
 ちょっとしたことでも ^{こま} **困**っている人の ^{ひと} **助**けになるかもしれません。
^{じぶん} **自分**が ^{こま} **困**っているときも、
^{えんりよ} **遠慮**せずに 「^{たす} **助けて**ほしい」と ^い **言**っていいのです。

▶ ^{ひとり} **一人**ひとりが ^{むり} **無理**せずに **できる**ことをしながら ^{ささ} **支**えあえるまに ^{して} **し**ていきましょう。

たとえば…



もっともっとバリアフリー



ポイント

□ バリアフリーを進めよう

□ 設備や建物の情報が
伝わるようにしよう

□ みんなの意見で
もっとバリアフリーに

▶ 町中の設備や建物などが
もっと使いやすくなるように
バリアフリーを進めていきましょう。
そして、設備や建物がどこにあるか、
どうすれば使えるか、
必要とする人に
必要とする人に
伝えるようにしましょう。
たとえば、目が見えない人のために
音声をつける、
日本語が読めない人のために

イラストやマークをつける
などです。

▶ 実際にその設備や建物を
使う人の話を
聞くことも大切です。
使ってみてどう感じたか、
どうすれば
もっと使いやすくなるか、
みんなの意見が
バリアフリーにつながります。

たとえば…



段差ではなく
スロープにします



音声やマークで
わかりやすく
案内します

